

第1回堺市歴史的風致維持向上計画協議会における主な意見要旨

計画全般に対する意見

○歴史まちづくり法の枠組みにとどまらず、古墳がある堺のまちを日本の歴史都市のひとつとして、いかにつくっていくかという大きなテーマのもとに検討を進められると良い。

○堺の歴史は京都以上にユニークである。他の都市では全く書けないような古墳時代やそれ以前からの繋がり、また、地帯構造や水系など、それらをいかに上手に書くかである。

○町並みや古墳群の資産は変化が進み、良いものと良いものの間はかなり隙間が存在している。良いものを残していく施策と同時に、それをつなぎ合わせていくための施策が大切である。

重点区域の設定に関する意見

○重点区域を最終的には明確にしておくこと。

○いずれは旧港と浜寺といった近代の堺を代表する場所も位置づけていければ、堺の都市の重層性が示せる。今回は、2ヶ所を先行すれば良いが、将来的には検討いただきたい。

事業に関する意見

○井戸跡や記念碑などではなく、歴史的な建造物の復元整備などにより、来訪者がより親しみを持てるような整備を進めるべき。

○鉄砲鍛冶屋敷周辺など、町並みや歴史的建造物が残っている区域では、建築物の形態意匠等の制限や建築物の修景などが求められる。

第1回堺市歴史的風致維持向上計画協議会における意見要旨と対応方針

項目	指摘要旨	対応方針
全般	<p>○歴史まちづくり法の枠組みにとどまらず、古墳がある堺のまちを日本の歴史都市のひとつとして、いかにつくっていくかという大きなテーマのもとに検討を進められると良い。</p> <p>○堺の歴史は京都以上にユニークである。他の都市では全く書けないような古墳時代やそれ以前からの繋がり、また、地帯構造や水系など、それらをいかに上手に書くかである。</p>	<p>今回の重点区域は、日本の古墳文化を代表する百舌鳥古墳群、中世の自由自治都市として栄えた歴史をもつ環濠都市の2地域を位置づけるものである。本計画において、この2地域は世界に誇れる資産であるとの認識のもと策定を進めていきたい。</p>
	<p>○町並みや古墳群の資産は改変が進み、良いものも良いもの間にはかなり隙間が存在している。良いものを残していく施策と同時に、それをつなぎ合わせていくための施策が大切である。</p>	<p>可能な限り、そのような施策を展開し、一体となった計画としていきたい。</p>
	<p>○本計画において、景観計画で浮かびあがらせた「重層した活かしたい堺の景観」(生活文化や産業文化と一体的に展開してきた景観)などを活かすためにどのように施策展開し、具体化していくかのひとつのシナリオを示す必要がある。</p>	<p>景観計画「活かしたい堺の景観」を踏まえた歴史的風致を定義し、これらを活用するための施策展開についても、その考え方を整理していきたい。</p>
堺市における維持向上すべき歴史的風致について	<p>○古墳時代があまり出てきていないので、是非古墳時代をもう少し前面に打ち出すような形として欲しい。</p> <p>○「古代」と書かずに「古墳時代」と書いた方が堺の固有性が出る。書き方や言葉の選び方を工夫し、堺の固有性を出すべきである。</p>	<p>市域の歴史的背景の整理において、古墳時代の中心性を記述する。</p>
	<p>○古墳時代以前からの須恵器の産地としての歴史から含め、堺のもっている重層的な歴史をもう少し浮き立たせる必要がある。その際、丘陵地から海浜部に至る地帯構造と歴史が相俟って展開してきたことを記載すべきである。</p>	

基本方針について	<p>○基本方針について、4つのテーマが示されているが、もう少し具体的に記述した方が良い。人々の場所への関わり方や現在の活動を歴史的に説明することが求められる。各資源が現在、地域の生活や産業、環境とどのように関わっているかを意識して基本方針を書き込む必要である。</p>	<p>基本方針については、堺市の歴史的風致の成り立ちや考え方、また、歴史的風致に資する事業の検討等、計画策定を進める中で具体的に記述していく。</p> <p>第2回協議会では、1から3項目を基本方針(骨子)として進める。</p> <p>4項目目の「歴史的なまちなみ、堺固有の歴史文化資源、伝統産業・伝統文化を活かしたまちの賑わいの創出」については、前期3項目と重複することから、3項目に「活用」を加えた上で削除する。</p>
重点区域について	<p>○この2地区を重点区域とするということが唐突に出てきているので、そのあたりを含めて説明を加えた方が良い。</p> <p>○堺市には、歴史的風致を有する場所がたくさんある。現在の市街地や人々の活動と関わっているかが分かるようなまとめ方をしたうえで、この2地区を重点区域とするという説明を行ったほうが良い。</p> <p>○重点区域を最終的には明確にしておくこと。</p> <p>○いずれは旧港と浜寺といった近代の堺を代表する場所も位置づけていければ、堺の都市の重層性が示せる。今回は、2ヶ所を先行すれば良いが、将来的には検討いただきたい。</p> <p>○資料6の15頁と17頁の図が重要である。用語や図の表現方法の精査に加え、歴史的風致の柱がこれで十分かどうかを再度整理すべきである。この重点区域2ヶ所で何を歴史的風致として重視していくのかを整理し、先の事業と繋げる構成が必要である。</p>	<p>堺における歴史的風致の重層性に加え、市の施策方針等も踏まえたものとして整理する。</p> <p>伝統等を反映した人々の活動と歴史上価値の高い建造物等を整理したうえで、重点区域を設定する。</p> <p>堺環濠都市区域:旧環濠の区域 百舌鳥古墳群及び周辺区域:世界文化遺産登録に向けた取組との調整などを行いながら最終的に整理していきたい。</p> <p>今回の歴史的風致維持向上計画においては、2地域に絞って進めていきたいと考えている。</p> <p>旧港など他の地域については、他の計画や事業などのまちづくりもあわせて検討していきたい。</p> <p>重点区域における維持向上すべき歴史的風致を再整理する。</p>

事業骨子について	○無形の民俗文化財や直接関係しないような絵画や工芸などはどのように扱うのか。ソフト事業メニューはないのか。	産業や祭礼の担い手育成なども含め、ソフト事業は重要であり、関係部局と今後調整していきたい。
	○ 事業の4つの柱が重複している。水系や産業・祭りなどのソフトも大切な柱となる。用語の使用方法も含め、再検討が必要。	事業については、一体となった事業展開を図ることを踏まえて整理していきたい。
事業の具体内容について	○井戸跡や記念碑などではなく、歴史的な建造物の復元整備などにより、来訪者がより親しみを持てるような整備を進めるべき。	歴史的建造物の保存・活用を図ると共に、まちなみの再生にも取り組む。
	○伝統産業については、製品の展示や実演ではなく、日常の製作風景を見学できるようにすべきである。	伝統産業に関し、地域において、どのような取組みができるか今後検討していきたい。
	○環濠の復元の条件を探りながら、まずは内川をきれいにしていくことを進めて欲しい。	内川・土居川は昭和の高度成長とともに工場排水や生活排水などにより悪化の一途を辿ったが、H2年度から H15年度にかけての「ふるさとの川整備事業」などにより、その改善に取り組んできた。今後は H20年度から H22 年度にかけておこなった水質浄化事業の効果を検証するとともに、治水や親水の向上についてもできる限り取り組んでいきたい。
	○環濠の中に大和川は入っていないが、お渡りが復活して並松町からかつての土居川から入ってくるので、そのような点も含めて是非一体的に整備して欲しいと考えている。	本計画においては重点区域を明確にしていくことから、その範囲での取組みとしていきたい。
	○錦小学校には貴重な歴史資料が数多く残されている。それらの活用も含めて検討すべきである。	教育委員会等を通じて検討していきたい。
	○鉄砲鍛冶屋敷周辺など、町並みや歴史的建造物が残っている区域では、建築物の形態意匠等の制限や建築物の修景などが求められる。	本計画に基づき景観に関する基準づくりや一定のルールのもと町家修景に係る支援をおこない、地域とともにまちなみの再生を図りたい。